

2017年10月
1128号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

平和の砦・世界平和へ ～ No! Atomic Bombs ～

今年もノーベル賞が部門ごとに発表され、平和賞の行方を興味深く待っていた所、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）が受賞決定。歴史を画する「核兵器禁止条約」が国連で採択され、その発効へ力強く尽力された ICAN に心から祝福を贈ると共に「核兵器なき世界」への大いなる一歩になった事を確信します。

ノーベル平和賞はダイナマイトで多くの命を奪った反省から平和を願って作られ、「国際間の友好、軍縮の廃止や削減、平和会議の開催推進の為に最大、最善の活動をした人物」に贈られています。

一冊の会では創立以来核兵器のない世界を願って、地獄の炎が降った広島・長崎を平和の「震源地」と捉え、毎年、八月には被爆体験の「読み聞かせ」活動を持続して参りました。民衆の正義と平和の連帯を紡ぎながら、民衆の声で核兵器のない世界を実現しゆく国際世論のうねりを高めていきたいものです。

— “ストップ! ザ・核” —

思いを文字に託し発表することにより、平和が語られ人間性が深まります。櫻華塾での成長の成果を三名の方から寄せて頂いた手記を掲載いたします。(小山)



冊子「宙」42ページより

平和活動—持続することの大切さを学ぶ

横山 和子

2017年ノーベル平和賞は ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）が受賞しました。今回の受賞は全ての関係者、被爆者に大きな勇気を送ると共に核兵器廃絶に向けた動きに一段と弾みがつくことに期待が寄せられています。ICAN の地道な活動に敬意とともに、心からお祝い申し上げます。

ある日、一冊の会をここまで築きあげてこられた心の原点ともいう貴重なお話を大槻会長から伺う機会がありました。それは青春時代の 60 年前、心から尊敬する指導者に出会った事でした。平和を願い人類をこよなく愛し、「核兵器なき世界」を目指し「原水爆禁止宣言」を発表。その場に居合わせ直接聞き、青年に未来を託された事の重要さを「ずっしり」と自身に受け止めた時に、腹が決まり、一ミリでも核廃絶のうねりの活動を——との思いで生涯の行動に繋がっていると伺い、とても感動致しました。

大槻会長は平和を願う心を大切に、一冊の会を通して国連の流れとともに、人道、人権に目を向け、読み聞かせから始まり、多岐にわたる社会貢献の活動に取り組んでこられました。私は一冊の会と巡りあって日が浅くこれから、学びの連続ですが、出来る事から頑張って参ります。

核兵器のない世界へ向けて

三坂万里子

先月の櫻華塾では、8月29日の「核実験に反対する国際デー」によせるアントニオ・グテレス国連事務総長のメッセージが配布されました。2009年12月2日、国連総会における64回目の会合で8月29日を満場一致で“International Day against Nuclear Tests”「核実験に反対する国際デー」と宣言しました。この日は、国連、国連加盟国、政府間、非政府組織、学術的組織、若者のネットワーク、そしてメディアへ、核実験を禁止する必要性を知らせ、教育し、提唱するよう決議されました。過去70年間、2000回を超える核実験において人間だけではなく、生態系にも被害が及んでいることを指摘して、いかなる国も二度と核実験を行えないようにするために、包括的核実験禁止条約、CTBT を早期に発効させて世界から核兵器の脅威を取り除く新たな弾みとすることを発信し

ています。

包括的核実験禁止条約 (Comprehensive Nuclear Test Ban Treaty、略称: CTBT) は、宇宙空間、大気圏内、水中、地下を含むあらゆる空間での核兵器の核実験による爆発、その他の核爆発を禁止する条約です。1996年9月、国連総会によって採択され、日本は1996年9月に署名、1997年7月に批准しました。2016年時点で183カ国が署名、164カ国が批准していますが、発効要件国 (核兵器保有国を含む44か国) の批准が、完了していないため未だ施行されていません。

本年7月に核兵器禁止条約が122か国の決議が国連で採択されたニュースが世界中流れました。核兵器のない世界の追及は国連誕生の時から焦点でありました。

被爆者を始め非核を願い戦う多くの人々、宗教者、学者、医学者、そして民間のNGOの70年越しの悲願の結実の時でした。生きている間に核兵器のない世界を築きたいとの被爆者の願いを投じて、条約の前文にはヒバクシャの文字が2か所に刻まれました。国連総会では、広島で被爆したサーロー節子さん (85) =カナダ在住=が自身の体験を語り、各国の代表から大きな拍手が送られ採択の瞬間には感極まる彼女を各国の代表が抱きしめていました。原爆は人間をメルツ、溶かす武器だとその非人道性を熱く訴え、ずっと語り続けるのは苦しいことだった。やっと世界の理解がここまで到達した」と涙ながらに語る彼女の姿に私も深く感動しました。

そしてこの非核運動の大きなうねりの中で、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)が本年度のノーベル平和賞に決定いたしました。ICANとともに活動してきた他のNGOも含めてまさに、民衆こそこの非核運動を支えている力であることが認められました。

安全保障の論議の中で、核の抑止論がしばしば引き出されます。人間の生存の権利を奪う核兵器の保持が安全保障だという考え方の転換を求める決議がこの禁止条約でありNGOの目指すものです。

私は現在、東京大学の国際政治研究室で仕事をさせて頂いています。毎年8月には広島で各研究者が核拡散防止と新たな安全保障のパラダイムを討議するラウンドテーブルが行われていますが、それは専門家や学者の枠組みではなく広く市民社会参加を巻き込む活動であります。禁止条約12条には「条約を普遍化するための努力」が規定されていますが、そのカギを握るのは市民世界の啓発教育と運動であるといわれています。

私の世代は戦争を体験していません。聞いて、学んで、感じて、何ができるか考え行動していかなければなりません。一冊の会ではそのモットー「見てこよう！聞いてこよう！語り合おうよ 友好の輪 10人の友達作り」の大切を教えてくださいました。

私の10代は学生運動の真っ盛りでした。ベトナム戦争に反対、安保反対、佐世保原子力船エンタープライズ寄港反対運動デモにも参加しましたが、自分の平和への思いをどこに託したらよいか迷う青春時代でした。相馬雪香先生を始め大槻会長、一冊の会の先輩たちから、民衆のひとりひとりが自身の心に平和の砦を築き連帯していく地道な活動の大切さを教わり、その輪の中で微力ですが活動できることに深く感謝しています。

***FAWAについては次回以降に掲載いたします。**

核兵器のない世界を目指して

箱根芳子

毎日のように北朝鮮の核実験、ミサイル発射についてのニュースが流れ、国連の場ではアメリカと北朝鮮のリーダーによる“ならず者”呼ばわりの激しい応酬が続き、世界は一瞬触発の緊張と不安の中にあります。まさに「人間存続の危機」です。

5年前、アメリカの原子爆弾開発計画、いわゆるマンハッタン計画に参加しその後、パグウォッシュ会議の事務局長、会長も務めたジョセフ・ロートブラット博士の「地球平和への探求」という本を読み、ラッセル・アインシュタイン宣言について大変感動する物語に接しました。

***パグウォッシュ会議ラッセル・アインシュタイン宣言については次回以降に掲載いたします。**

第2次世界大戦の空襲で両親と姉と共に防空壕に生き埋めになり、一人助け出された私は生き残った事を呪いながら青春時代を過ごしました。でも「人間は生きている限り使命がある」という言葉に出会い、86歳の今は「核兵器のない世界を見届けるまでは死なない」と言って笑われています。私がいつも心に言い聞かせている詩の一説に、「一握りの権力者が支配する愚劣な歴史のリフレインに終止符を打つために黙ってはいけぬ、諦めて傍観者であってはならない、疲れて怠けてはならない」とあります。

全人類の幸せと世界の平和と繁栄を願う国連の場で、この世界から“悲惨”の二字をなくすという願いを込めて採択された核兵器禁止条約を現実に力あるものとするのは私たち一人ひとりの叫びと行動です！世界の隅々まで眼を広げ、平和と人権を守るために草の根の活動を展開している一冊の会の一員であることを自覚して、それぞれ全力を尽くして参りましょう！

編集：小山 協力：赤田